

|               |            |    |       |
|---------------|------------|----|-------|
| 研究分野          | 増養殖技術      | 部名 | ほたて貝部 |
| 研究課題名         | 海面養殖業高度化事業 |    |       |
| 予算区分          | 国補（県1/2）   |    |       |
| 試験研究実施年度・研究期間 | H.16～H.19  |    |       |
| 担当            | 吉田 達       |    |       |
| 協力・分担関係       | 水産振興課      |    |       |

### 〈目的〉

養殖中のホタテガイや資材に付着生物が付着することにより、ホタテガイの成長が阻害されるほか、分散や出荷時には作業効率が著しく低下する恐れがあることから、付着生物の生態等を調査・研究し、効率的な付着防止方法を開発するものである。なお、調査対象は、春先にパールネットへ大量に付着するため、近年、漁業者から要望が高いユーレイボヤとした。

### 〈試験研究方法〉

#### 1. ユーレイボヤ付着量調査

陸奥湾西湾の蟹田・奥内・蓬田・久栗坂・浦田、陸奥湾東湾の東田沢・清水川・野辺地・川内で、平成16年3月下旬～5月下旬にかけて、パールネットの上段、中段、下段に付着しているユーレイボヤを採取して、段ごとに重量を測定するとともに、漁業者から秋の分散時期、漁場水深、養殖施設水深の聞き取りを行った。

#### 2. ユーレイボヤ浮遊幼生調査

陸奥湾西湾の蓬田・久栗坂、陸奥湾東湾の野辺地・川内で、平成16年9月中旬～11月中旬にかけて、各地点3～4回、北原式定量ネット（口径25cm、目合XX13）を鉛直曳きして、ユーレイボヤ浮遊幼生を採取し、万能投影器を用いて個体数と全長を測定した。

### 〈結果の概要・要約〉

#### 1. ユーレイボヤ付着量調査

全く付着していないパールネットがある一方、1段当たり約1kg付着しているパールネットもあった。また、各地域とも上段よりも下段の方が多く付着する傾向が見られた。1連の総付着量を推定したところ最大で5,943g（東田沢）となり、1連当りのホタテガイの総重量に匹敵する莫大な量のユーレイボヤが付着していることが明らかになった。なお、遅い時期に分散したネットほど付着量が少ない傾向にあるが、9月に分散したネットでも付着量が少ないケースもあり、今後、詳細な検討が必要である。

#### 2. ユーレイボヤ浮遊幼生調査

蓬田地区は0～2.7個/トン、久栗坂地区は0～0.6個/トン、川内地区は0～1.7個/トンの範囲で浮遊幼生が出現したが、野辺地では全くラーバが見られなかった。平成14年度に青森地方水産業改良普及所が平館地区で実施したラーバ調査結果と比較すると、かなり少ない出現数であった。

〈主要成果の具体的なデータ〉

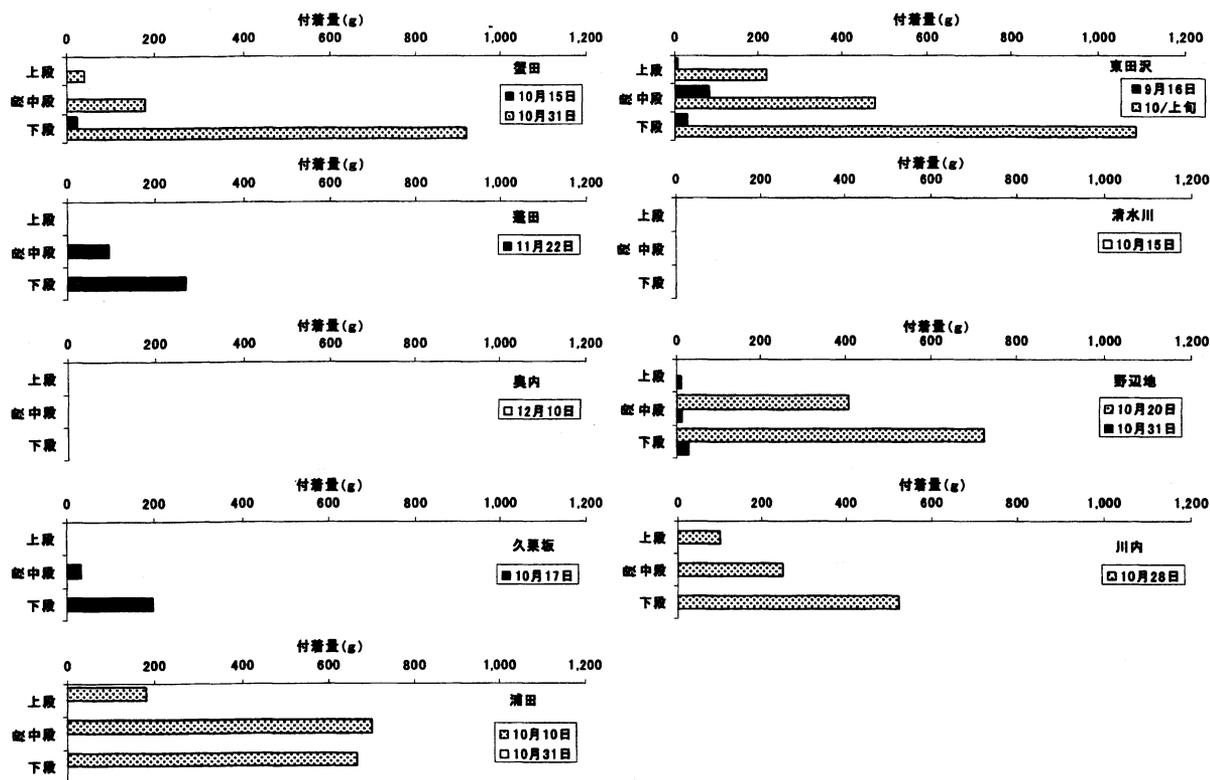


図1 平成16年度パールネット1段当りのユーレイボヤ付着量

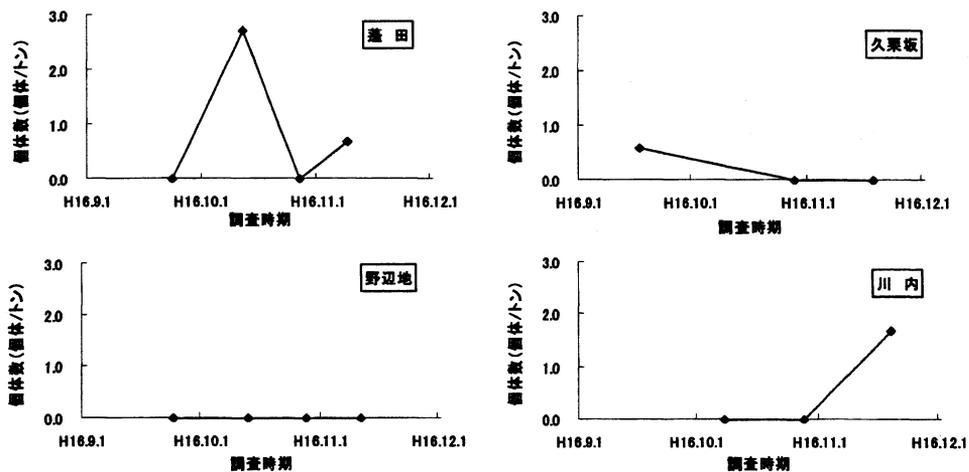


図2 平成16年度ユーレイボヤ浮遊幼生出現数

〈今後の問題点〉

付着量・浮遊幼生出現数は年によって大きく異なると考えられることから、継続してデータを取る必要がある。

〈次年度の具体的計画〉

付着量・浮遊幼生調査を継続して実施するとともに、実証試験により付着防止対策の検討を行う。

〈結果の発表・活用状況等〉

全体協議会及び地域座談会にて、試験結果の報告を行った。